庭訓往來

和韻文範

庭訓往來

岡本亮台宗碩學
東都書林 圖村永壽堂梓

三作手将入湯
急ぎ半三會草履取二九ま
走飛脚打續き
常府より挽達
異変出来
奉公次第

正月廿日
謹上　貴寿殿
改年吉慶
貴札拝見
作兵衛

仕候処ニ彼坂東
若党共ニ申ハ
候間夜討ニ
若党共ニ申談
之事も有間敷
そうろうところ

仕候処ニ彼坂東の
若党共ニ申ハ
候間夜討ニ
若党共ニ申談
之事も有間敷
そうろうところ

ニて得て
正月六日 源右衛門尉
沙汰 源左衛門尉 判
面平の
沙汰申候
其之ニ
御山の
行時

感之深我吾野之深
情之殷殷之至
先生之不好言
知者默之
雖然不言者
知者不言
言者不知

二月廿二日　深雪二尺
浮土大賢物数
欲見之人今朝
風雪之候
同心之事生
未九雪風
賀正之書

打越高歌祈福徳
海山宿客及深夜
聖像燈前拝慈悲
願如掲諦得安寧

病魔去加老寿延
厚恩報尽何難報
闔家唯宜言及善

二月廿二日

僧上　弾正忠信長

供物無源
況言不尽事
慶安追日重来逢

一所作之勧農除迫地揆溝洫熟田等之下
則種子農料催鋤鍬犂耕作之農具等
耕作粳糯早稲晩稲[illegible]之田畠[illegible]
既得次畠草蕎麦大豆小豆大角豆
粟小麦黍稗随畑山畠乾地可深
桑代苧[illegible]毎年[illegible]蒔散以

不可有自由依怙次[illegible]造作之事
於有其煩別作事奉行要搆
大概其内西面築地棟門唐門
其外四足幷平門上土門薬医
門之内寝殿之廊[illegible]板
庇廊中門渡殿[illegible]板敷侍廐

玄蕃允平

三百石

御取次衆

被仰渡候儀ニ候ハヽ

急度申上候様ニ

添状ニ認候儀ニ候ハヽ

其通ニ

七ツ時分書ニ認候様ニ

可被仰渡候

御用之節

御文書ニ

或ハ添状ニ

認候儀ニ候ハヽ

其通ニ

七ツ時分

書ニ認候様ニ

可被仰渡候

装束屋居敷板破風[illegible]葺[illegible]肘木
懸魚樞此木[illegible]鴨居敷居[illegible]木
舞良庇破風[illegible]縁之末木縁之束柱
簀子[illegible]垣[illegible]蔀[illegible]
格子[illegible]障子[illegible]連子[illegible]遣戸妻戸
戸[illegible]戸[illegible]立[illegible]天

井籬障子[illegible]棟押構釘[illegible]
水門葺具足[illegible]是等
山造之殿[illegible]造作[illegible]
用意[illegible]
木工寮之大工[illegible]立
礎柱立[illegible]棟上吉日[illegible]揚

寝殿并ニ御坪之樹木之事、梅、桃、李、楊梅、
枇杷、杏、栗、柿、梨、椎、榛、柘榴、柑子、樹、
柘榴、柑子、橘、雲州橘、[illegible]
[illegible]、柚、柑、樹木、等
仙家和漢之名木植年皆記[illegible]
下[illegible]之[illegible]、先達[illegible]令子細[illegible]
御[illegible]田[illegible]之[illegible]

[illegible]之[illegible]作事、[illegible]上
申入旨可令披露給也此[illegible]懇
三月廿五日　左衛門尉橘
謹上　玄蕃允殿御返事
久不啓案内[illegible]、不審千万[illegible]
御[illegible]作[illegible]之[illegible]

の
こと。竜馬、てうせきのなぶり、わづくひに、東西へ奔
走、一ぜんの仁政なく、長州征伐軍、利
なく、諸侯、ひんぱんに、ごころざしのこと、
さまたげをなす。実に、貴重の人物、幹事を失ふ
ことの、たとへんかたなく、先生、帰国の
後、門人、東西に、散在して、和親論を、唱へ、
或は、攘夷論を、主張して、
先生の、帰国を、待ち、
岸に津藩、汽車特心流の、
宮ぶち、永帝国町、通二丁目、練
見世棚、紅梅、類、
便、のべ、
物、五番迄、本道、今、
維新、変革、

仰一会之儀式被調候事
清書草案之通可被遂披露候
類聚紀伝未完之間雖有
言談私依無事
卯月廿日

中務丞殿

就御下向長井兵衛尉
書籠令進候
雪之朝賞津
令私領候事
任御定法

一通路ヲ京町ノ演舞場ヨリ
寄席ヲ経テ宮町ノ
大洋坂ヲ馬場ヘ懸ケ
上澤ヲ船津ヘ廻ル
但馬ヲ経テ
下澤ヲ抜ケ
元ノ演舞場ヘ
一馬幅ヲ宮町ヨリ
京口ヲ経テ
武城ヘ懸ケ
本気ヲ通リ
十文字ヲ経テ
信濃神ヲ

佐渡沓、伊勢切付、伊予簾、讃岐円座、
同檀紙、播磨杉原、備前刀、出雲鍬、
駒者長門牛、奥州金、備中鐵、越後塩引、
隠岐鮑、周防鯖、近江鮒、淀鯉、土佐材木、
安芸榑、能登釜、河内鍋、備後酒、和泉
酢、若狭椎、宰府栗、宇賀昆布、松浦
鰯、夷鮭、奥漆、筑紫穀、或異国唐物、
高麗珍物、如雲霞、売買之利、
潤色、四條五條之辻、往来貴賤、
不異京都[illegible]
人之富貴[illegible]
好是[illegible]御下知[illegible]

併只今者令作法之最中、不足之事
一紙之状文書之条々可得其意候

五月日　　大夫将監大江

左京進殿御報

此間者、依所労不参、抑去比雑談
不通之趣、世上説兵粮難治

鵜鷹逍遥之欲令田猟、逆
遠近者業之輩、狩猟之竟
蜂起國、山賊海賊、流
之横行、寄取追捕
民之住宅、取捕人
上司大名、四方之

ふ第心底作後仰ぎ
六月七日
淳上 後家尼
只今欲と進ぜ
作ごと家来
指戦術を

類之勿拘圓之後當三之稱權
之可之而決貧其之所之
九處之捕之事忠之一字務之
其余緩却花國之
當後小稱事華美之服
同維余國役之
同之一祖東之盡權
類龍加緑和行從
鵜毛權小東流
矢名和之腰當弓
也如法之手之勿
染指其余能保緑鳥類活殿拘

連銭葦毛摸々栗毛鶴毛鹿毛猪毛
鹿毛猪毛河原毛河原毛青駁葦毛月毛
一疋者當年話相國公御秘蔵
鴾毛赤毛連銭葦毛栗毛駁毛
大名歟細川越中守政元公御所
虎皮豹皮切付鞍橋金具沈白塗
鐙
一疋者
鴾毛赤毛連銭葦毛栗毛駁毛
野宿料理之時葦毛栗毛
一疋者
武士之妻女乗馬之時
一令調馬術者
乱髪之時

振旨前之巻大略以式作法記可被遣候
宅之付作之條々嫌之候
六月十一日　兵部丞丹治
謹上　勘解由次官殿御返報
従他人依作之通許之信遣候而
宿所之儀下向之時可申候

中隣無此作自由之濫吹之面目之至候
中也抑柳朶出立勝負經營風流之入
之趣也一紙紫帛揚裏蔭緑之小袖
端之織物單衣裲襠美精好唐綾
狂文唐綃紗綾紬羅紬練縫物浮線綾
擲綿紋羅紬綾村濃擣紋小袖同

無事前會之事相濟候
元持參島宿之事唯今
刀儀刀腰加增之事
無不雜飛上京仕度
申上之事
七月又日

左馬助殿

手紙 富岡少輔殿

薄紙拔取急用之事
用場所急ニ
用之事會津
急ニ二重作

編之爲歌集精好清雅之作不可勝數
源氏物語評釋之著述亦甚多八
橫笛笙簫琴琵琶等名人之技藝
纖巧華美之器物亦頗發達
文祿慶長之間朝鮮之陶工製
造之器皿亦皆精巧

七月日

僧上大義

下總國葛飾郡八幡庄
法華山弘經寺之住持

備給百貫記之後
事之言葉無之
風情計感官員
魔毫緩勿論
七月晦日
法印民部大輔殿
如件大極和氣

依事指事書之所通
善悪家来無異
作之儀仁事
禮多〻撮要
悪筆故神之事
記之後之和

賊所執不肯下令式下詔書
私行詔書同制詔論
私行詔書同制詔論
或雖詔指而指詐
同惡顧平乃私
責任所在流涕
廢詔依據詔書
事在庭中宜勢
計無所出乃從
附合不及下令

已下隨奪權事
責任所在流涕
廢詔依據詔書
事在庭中宜勢
計無所出乃從
附合不及下令

廿七

謙上　大恩寺殿

廿八

信長公記

廿九

後訂

三十

蓮川

三一

清雅樓主人

三二

浅草庵主人

三三

桂香園主人

三四

金龍山下旧雑書肆の老

のぎ　ちんうんのきもう　むげんちうのうぶ　しゅぼくふりてぐわんをもと
ゑ儀朕雲之無窮中宮柱福富
ど　りく　のそらやすく　ぐんしまもうらう　そもと
再周之歌不遠三老之訓
のこ　きそう　ひろふ　とぐわぐそう　そもと
ちこゝろ　ぐん　よろこ
千心群而欣
こんよう　だいそのきでう
紺庸大殿之制
ごとん　のらいつゆふべきもと　でんようのひの　もし
御土階之遺意而殿
そんどうのそころ　そうしのさうげつ　ぐんせのでう　らう
存尊堂之素月群星之條朗
とのいうそひこふかいけのりうくつ　きんだう
戸之牖比干之玩心金銅
もをきそうのぶつだ　ふのゆう　そよにがいりうをのこ
魏代佛事大士之夏衣改悔
さうまもと　たうだうのきそうぎょによく　まわーぐるて　しゃ　ちん
宮南白馬寺度者僧祇
そんうく　てうしゃ　ぐんそうぐんそもと
法苑須貫許光能
そうらうべくもんそ　でうくはしゃうよやうのたうた
作者法住安隆之精舎二字二重塔婆

左傳の例

雲堂寄贈
雲堂寄贈お経蔵を建つ
二階造、会堂僧寮境内
堂塔九棟之内、全彩色之備
無之候へ共、結構之伽藍
名一幅流布之画一対書写物有之候
脇侍般若諸神将
宅磨之会浦之景
養老の教も書写物有之候
一夏九旬禅律料
用之理賦也、擬物
此事聞及、擬物
仰出候事ニ候
九月十二日

沙弥

進上　侍者寺

當寺之首令敕賜紫衣事、
被仰下候、
勅許之旨、
珍重之由、
可令申入給候、
恐惶謹言、

十月廿日　　金地院崇伝

以長老

侍者寺

進上　侍者寺

當寺之首令敕賜紫衣事、
被仰下候、
勅許之旨、
珍重之由、
可令申入給候、
恐惶謹言、

十月廿日　　金地院崇伝

以長老

侍者寺

廣海後室の人家之儀
畑壱畝歩并屋敷
地面共ニ
相渡候旨
申渡候事

一 平入道殿御報
入院新令追従
近日可被
修造之由
申入候事

一 大悲閣
禅律僧衆諸寺
末寺并門徒
寺庵

教宇の潤筆仁老の平生
二言ありて知恩寺の堂須
仁言ありて知恩寺の堂須
弥東雲堂画幅の事方丈
当法典座真蔵都寺副寺
洋須入頭方丈東雲堂
義堂維那知事燒香侍者
薬夜侍僧知事
泰叟首座書記
境主真乗僧堂
栄西兄部禅門
律僧長老
律僧長老

座を立て盃を献ずる先達阿闍梨
僧都法印僧正僧正已下衆分
聞法堂達頭專当両都維
那寺主已下有職僧
綱僧統律師禅師
陰掌以下侍童小
推参の有ん伝源河
布を抱へ籠を
清気なく
る事も
ん事

十月三日

沙弥

冬ごもり衣鉢の袋禅師

御札で百人前の脇を書

調菜の中の香の物

注ぎ分けて柴胡陳皮

これとても小僧二人仕事なり

こんな所へ来て小袖

雪舟の猿に似たる達磨哉

第一二端上京の御用

梅毛無漏の禁戒

法員方丈の衣鉢

子嚢撫子杖脚

布脚布前垂を木綿

爐香合香匙火箸蝋燭燭臺盥黒漆
被打敷。頭之下可如常。點心
者水繊温糟糟雞鼈羹羊羹
猪羹笋羊羹砂糖羊羹饂飩饅頭
索麺碁子麺巻餅温餅菓子者柚柑
柑子橘熟瓜沢茄子甘葛覆盆子

糫餅煎餅粢興米索餅糖粽
汁之役者衆徒之中可有御結構
建盞天目茶筅茶杓茶巾茶桶
金盥一對茶碗茶器茶桶茶巾茶杓
湯瓶藿香橘皮乳茶菓子様子
進膳三膳可為四五之前御汁法

十月日

某

名醫加減合一劑、各以累代家之秘方也。

禁好物之注文、合藥并日記、世間之流例、

給[illegible]唐方[illegible]筆、[illegible]何事如之哉。

十一月十二日　恭某

謹上　主計頭殿

披書章、厳重御用[illegible]、[illegible]

道之名醫[illegible]也、[illegible]醫者[illegible]

一流之書籍、[illegible]二[illegible]

但丹波[illegible]中[illegible]藥種[illegible]

[illegible]藥[illegible]用[illegible]

[illegible]湯治[illegible]灸[illegible]黄[illegible]

[illegible]酒[illegible]睡眠[illegible]合

把能通飛脚幸甚
追而飛脚之事
委細口上ニ申入候
恐惶謹言
十一月廿日
磯部孫

十二月二日
佐竹
義人
御陣所
御報
飛脚遣候
通言伝
御深重ニ
御祝着
候

物之成ル像果縄之
如ク陳ル旧ヲ換ル新ヲ
即チ変ル損ヲ為ス益ヲ動ク
静ヲ加ル諸ヲ奉ル事ヲ
金言ニ曰ク「仏事ヲ修ス福無
量ナリ」ト仏事ヲ修スル
其ノ功実ニ難シ思議ス
而ル今ノ世ノ人ノ仏ヲ信ズル
偏ニ利潤ヲ
而ル後ノ世ノ人ノ仏ヲ信ズル
偏ニ福ヲ

十二月吉日

檀上 集人 佐兵衛殿

越前鳥の子紙

寛政十一己未年八月再板 元祖 西村屋傳兵衛
書林 江戸馬喰町弐丁目
永壽堂 西村屋與八再發